

熊本県立八代高等学校 平成30年度学校評価表

<p>1 学校教育目標</p> <p>「平成30年度県立中学校・高等学校における教育指導の重点」を基盤とした本校の綱領である</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「誠実にして真理を愛する」 To love truth, being sincere. ・「自律を旨として協和を重んずる」 To respect harmony, being self-determined. ・「闊達にして進取の氣象を尚ぶ」 To develop a spirit of enterprise, being broad-minded. <p>を教育理念の根底におき、生徒の知性と品性、豊かな感性と闊達な行動力を育むとともにグローバルな視野を切り拓く教育を実践する。</p>

<p>2 本年度の重点目標</p> <p>ア グローバル人材育成プログラムの推進と精選（知の触発プログラム・アクションプログラム等）</p> <p>イ 学力の三要素を踏まえた指導方法の実践と検証（主体的・対話的で深い学び・ICT機器の活用）</p> <p>ウ 学校の魅力発信の推進と精選</p> <p>エ 中高一貫6ヶ年グランドデザインの完成</p>

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	グローバル人材育成	◇グローバルマインド並びにグローバルスキルの向上	<ul style="list-style-type: none"> ○実践的英語発信能力の育成を図ると同時に、各種自己研鑽活動・社会貢献活動に自発的に参加する態度を育成する。 ○各種ビジネスコンテスト等の全国大会入賞、社会貢献・自己研鑽活動等への参加者延べ1300名以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・即興型英語ディベート、イングリッシュキャンプの実施、外国語資格取得を推奨する。 ・各種講演会等（知の触発プログラム）を実施する。 ・グローバルアクション通信を発行し、自己研鑽活動等への参加奨励を行う。 ・活動の最新の様子について、HP等で常に公開する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・英語ディベートでは全国大会出場、授業導入賞を受賞した。 ・高校生ビジネスプラングランプリやTTBizなど自己研鑽活動等に約1200名が参加した。参加経験のない生徒への促し方が課題である。 ・各種講演会等の様子を随時HPで紹介し、学校の魅力を伝えることができた。
	中高一貫教育の推進	◇中高一貫グランドデザイン再設計	<ul style="list-style-type: none"> ○より質の高い中高一貫校としての教育課程を編成する。 ○各教科が6年間に渡る教科指導の流れを示したグランドデザインを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校中学出身者に対する高校での教育カリキュラムを検証し、教育課程の見直しを行う。 ・学習指導委員会等を利用して各教科のグランドデザインを検討し、完成する。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科において、6年間を見据えた指導の工夫、改善は行われているが、グランドデザインとして纏め上げることができていない。
学力向上	教師の指導力向上	◇アクティブラーニングの視点、ICT活用学力の3要素を踏まえた授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒による授業評価において各教科のアクティブラーニング、ICT活用、学力の3要素を踏まえた授業実践についての肯定的評価が70%を超える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業力向上のため、各種研修会への参加やスーパーティーチャーの指導を仰ぐ機会を提供する。 ・生徒による授業評価を年2回実施する。 ・ICT活用やアクティブラーニングに取り組んだ研究授業を各教科年2回実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価における、「言語活動の充実」に関する肯定的生徒は81.4%であった。 ・互いの授業を気軽に公開したり授業評価方法を検討する必要がある。
	生徒の自発的な学習の促進	◇予習→授業→復習のサイクルの確立及び教科等の学習の統合、転用、活用の促進	<ul style="list-style-type: none"> ○学年ごとの目標学習時間を設定し、過半数の生徒が目標を達成している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年における適切な目標学習時間を再検討する。 ・年3回、期末考査前に宅習時間調査を実施して家庭学習、読書等の指導に活用する。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価において、目標とする家庭学習時間を十分またはある程度確保できている生徒は47.7%であった。宅習時間調査の結果を学習時間確保につなげる方法を考える必要がある。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
キャリア教育 (進路指導)	入試改革に対応する確かな学力を身につけさせる指導	◇6年間の進路指導ブランドデザインの完成	○求められる学力を育成するための6年間の指導方針を完成する。 ○他の部署、各学年、各教科と連携し、生徒が志を高く目標を設定し維持する態勢を作る。	・自己研鑽や社会貢献活動を通して自己の進路を考えさせるための情報提供を行う。 ・全職員が最新の入試動向を理解し、大学入試問題の解答力を身につけ、指導に役立つ。	B	・各部、各教科の中で新入試を見据えた指導の工夫改善は進行しているが、ブランドデザインとしての形にまとまっていない。 ・入試問題研究は各科の協力で今年度冊子化できた。
	生徒の進路観、職業観の育成と志望大学選択の指導	◇Classiを活用した個人の活動体験データのポートフォリオ形式での蓄積	○志望大学を決定させ、個人個人の将来の学びの設計まで考えさせる。そのために在学中に外に目を向け、内包する様々な問題に気づかせる。	・高1からのポートフォリオの電子化の指導。各種の体験活動や講演会および研修など、他の部署と協力して実施する。	B	・新入試に関連してClassi活用によるポートフォリオ作成を高校1年で進めている。 ・グローバル改革推進部との協働で知の触発及びグローバルアクションプログラムに協力できた。
生徒指導	自由と規律に基づく自律的な行動	◇規則を守ると同時に、自ら適切に判断し、行動しようとする態度の育成	○自己教育力を身につけ、常に5分前行動、挨拶の励行、服装・頭髪の整美ができる生徒の育成し、3学期までに整容指導対象者ゼロとする。	・全職員共通理解のもと、不公平感のない指導を行う。 ・年間8回整容指導実施。 ・朝の登校指導を利用し、服装の整美、時間厳守、挨拶を指導していく。	B	・全職員共通した基準で整容指導を実施できた。 ・登校指導を継続して実施し、挨拶や服装の整美、時間厳守に貢献できた。 ・整容面で繰り返し指導を受ける生徒への対応が課題。
	生徒の危機管理能力の向上	◇交通マナー向上、交通事故の防止 ◇情報モラルに係る危機管理能力の向上	○今年度の交通事故件数を15件以下にする。 ○ネット上の特別指導事案をゼロにする。	・登下校指導を定期的実施しする。PTAと合同登校指導を学期毎に行う。 ・年度初めに情報教育講演会、交通講話を実施する。	B	・交通事故件数は昨年より減少傾向であった。 ・並進等の交通マナーが課題である。 ・スマートフォンの校内使用は増加した。
人権教育の推進	人権問題の正しい認識と差別をなくす実践力の育成	◇地域の実状を踏まえた人権意識の向上 ◇実践力を高めるための中高一貫6年間を見通した各学年の目標設定と取組	○部落差別をはじめ、あらゆる差別の解消に取り組む生徒を育成する。 ○職員一人一人が人権問題に関する基本的認識を確立し、人権教育を推進する。	・人権部落問題学習(1回)及び校内人権集会(2回)を実施するとともに、地域の子ども人権集会への参加を呼びかける。 ・地域主催の人権同和集会(原則全員)や現地研修会(新転任者及び希望者)に参加する。	B	・各学年ごとに言わない・書かない・提出しない、八代市の部落問題、農民解放運動についての学習、また身近な人権差別問題についての学習を中高連携して取り組んだ。 ・職員が八代市の人権集会や現地研修会に参加し、地域の人権部落問題についての認識を深めることができた。
	生徒が的確な教育上の特別支援を受けられる体制の整備	◇障害の有無や個々の違いを認識してお互いを支え合い、すべての生徒が生き生きとした学校生活を送るための取組	○支援を要する生徒の実態把握と共通理解に努める。 ○個別の支援計画を立てるとともに、予防的な指導及び支援の充実を図る。	・授業時や学校生活の中でのきめ細やかな観察を通して情報収集をもとに、生徒理解研修を年3回実施する。 ・必要に応じて人権教育部会や特別支援教育委員会を開き、個別の支援計画を立て、支援する。	A	・各学年部会において、週1回生徒の情報交換を行うとともに、人権教育部会でも共通理解を図った。 ・特別支援教育委員会を開き、個別の支援計画を作成し、個に応じた支援体制の充実を図った。 ・生徒理解の職員研修を年2回開き、生徒一人一人の把握に努めた。
	命を大切にすることを育む指導	◇自他の生命を尊び、大切にしていこうとする態度の養成 ◇自らの在り方生き方を学び、夢や目標の実現に向けて努力する態度の育成	○すべての教員が学習活動において生徒の人権感覚を育む指導を行う。 ○社会貢献活動や自己研鑽活動をとおり、生命や自然に対する畏敬の念を高める。	・人権教育と関連する学習内容を確認するとともに、人権感覚を意識した学習指導を行う。 ・ボランティア活動や自己研鑽活動への積極的な参加を促す。	B	・日頃の授業や講話を通して、自分や周りの命を大切にすることを育む指導を行った。 ・校内職員研修を通して、人権感覚を磨く取組を通して、授業や生徒指導における知識や技術の向上に努めた。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
いじめの防止	いじめの予防と発生した際の早期発見と対応	◇いじめを未然に防ぐための予防的取組 ◇いじめの早期発見と早期対応	○日常の授業や面談を通して生徒の状況を的確に把握する。 ○定期的なアンケート調査により、いじめの早期発見に努める。	・学期に1回アンケート調査を実施し、いじめの防止・早期発見に努める。 ・学期に1回いじめ防止対策委員会を開き、実態把握と早期発見・対応を行うとともに、スクールカウンセラーや関係機関との連携を図る。	A	・教育相談週間や学期に1回行う心のアンケートをもとに、聞き取りや対応を早期に行い、その経過をいじめ防止対策委員会で話し合い、生徒のおかれた状況をきめ細く把握し、いじめの防止と対策に努めた。 ・教育相談や生徒理解研修を年2回実施し、生徒の情報を共有し、支援体制を構築した。
地域連携 (コミュニティ・スクールなど)	コミュニケーションの活性化	◇地域とともにある学校づくり	○生徒の安全、安心を第一に考え、防災避難訓練を年に3回以上実施する。 ○熊本地震を踏まえた避難所運営マニュアルの作成を行う。	・避難経路の確認を行い、消防署指導の防災避難訓練を実施する。2学期以降、地震を想定した防災避難訓練及び引き渡し訓練を実施する。 ・防災型コミュニティースクール運営協議会等の指導・助言を受けて、災害時における本校の役割等を検討する。	B	・消防署指導による地震や火災発生時を想定した避難訓練やシェイクアウト訓練を実施することができた。また、津波を想定した校舎への避難も3月に実施予定である。 ・災害発生時における学校施設の避難所等利用に関する基本協定書締結に基づき、避難所運営マニュアル八代高等学校版を作成した。

4 学校関係者評価

- ・課題として、生徒の宅習時間の不足が挙がっていたが、原因の究明を具体的に行うことが必要なのではないか。
- ・成績上位者に関しては難関大合格者など成果は上がっていると思われるが、中堅以下の生徒の伸びの不足も課題として考えないといけない。
- ・スマートフォンの使用については、使用を制限できる保護者が少ないのではないか。
- ・本校生は与えられたものをきちんとこなしていく姿勢は持っていると思うので、学校の方でやるべきものをしっかりと与えてもらい、家庭でもチェックできればと思う。

5 総合評価

- ・今年度の評価は昨年度と同じでAが3、Cが2、残りがBであった。項目に違いはあるが、Cの一つは昨年と同じ「生徒の自発的な学習の促進」であった。
- ・学校評価アンケートから得られた肯定的な評価は、生徒、保護者ともに多くの項目が80%以上であった。生徒・保護者ともに2項目が80%未満であり、概ね肯定的な評価であった。
- ・各部の取り組みは、概ね計画通りに実施することが出来ていた。

6 次年度への課題・改善方策

- ・常に課題として上がる生徒の学習時間については、今後も各教科・各学年で指導の工夫・改善を加えることに取り組んで行かなければならない。
- ・学校関係者評価において、上位者に関しては難関大合格者など成果は上がっているが、中堅以下の生徒の伸びの不足を課題として考えないといけないという指摘があり、学校全体としてしっかりとまとまって対応していく必要がある。
- ・新学習指導要領を見据えた6カ年のグランドデザインの構築は、各学年・教科・部・中学校との連携と協働が必要な作業であるため、次年度は早めに取り組み完成させる。